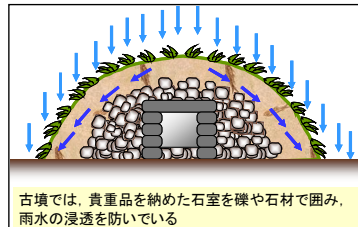
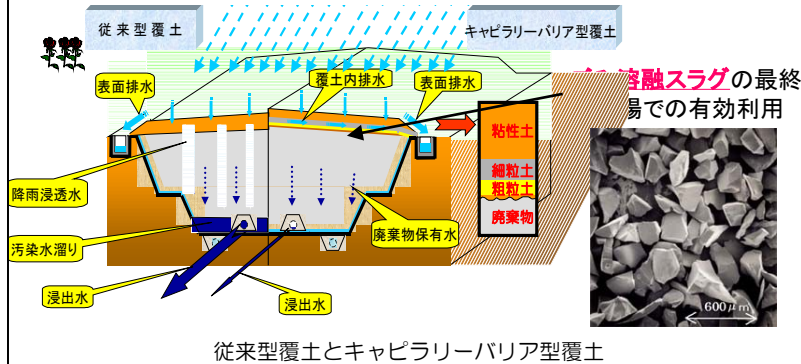


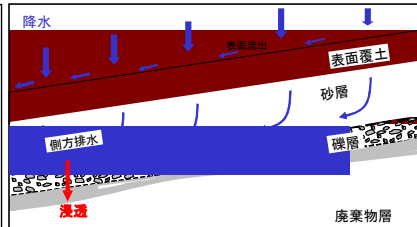
# 焼却灰を用いたキャピラリーバリアの設計・施工に関する研究

岡山大学大学院環境学研究科 西垣 誠

## 研究概要



原理の応用例



水島ごみ溶融スラグのキャピラリーバリア型覆土・砂材料への適用性を物性試験・数値解析・室内大型土槽試験で検討



## 成果及び今後の展開（事業化の可能性）

ごみ溶融スラグは砂質材料と同等の性能を有することを確認  
→最終処分場覆土への適用の見出せた。

### ○循環型社会への寄与

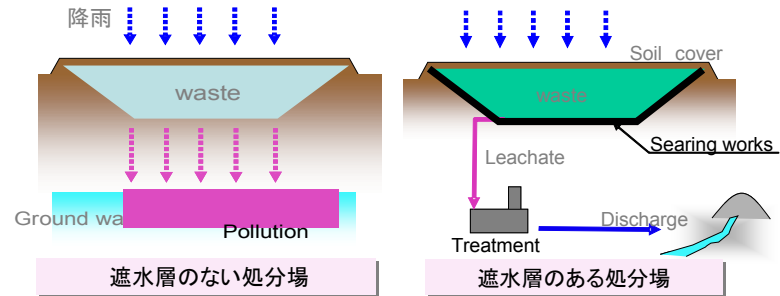
中国地方で年間約2万トンの処分されているスラグを有効利用  
岡山県内の2006～2010年埋立終了予定施設数：10施設（5年間の潜在的利用見込量：約6万トン）

### ○環境リスクの低減

廃棄物への浸透水を抑制することにより、浸出水の漏水による汚染の可能性を低減（→より安全・安心な処分場へ）

### ○水処理コストの低減

廃棄物への浸透水を抑制することにより、水処理コストの低減が期待される。  
例えば、年間300mmの側方排水、埋立面積1万㎡の処分場であれば年間3000m³程度の浸透水軽減が期待される。



### ■解決すべき課題

最終処分場で実規模の施工を行い、実際の降雨に対する浸透制御状況のデータを収集し、有用性を確認すること。

### ■実現性

適用現場に対して、即時に設計・施工が可能。